



千住宿の大儀村に孫兵衛との百姓の両親もあり
 女房もあり九歳ある娘もあり身で
 のりあがり此ち放蕩に任せ女身や酒と
 遊びまわけて家も尻がもつぬゆへ両親の
 心配あるとき年より夫婦がとほしあ
 りて嫁が氣はぬのであつた嫁とまはして
 自分まのつて女といきまゝあつておとほして
 あつたあつたつとさうして居ると九歳ある娘の
 おのぶが聞いて居て母上さん家を出さうと大
 變ごと年九つでも大きき心配してどけ父上
 の放蕩がさうなつと天神さぬ一心願うけて毎日
 飯一粒も食はざらんやせて眼がくぐみ歩行もヒヨ
 くりとねつて家内心配して醫者よけても薬も香まじ
 むのくも悪くあつて孫兵衛も我子様子をばい思ひあ
 りるのききと賞して是と喰といふも食はぬゆへ大いはいり娘
 とつていふとあつたのぶがやうも願うあげ其やうもあつた
 つけ外が父上の放蕩がさうなつと母上もまのまのあつたと聞
 天神さぬ願うけて父上の放蕩がさうなつと二七日のあつて何
 もなせぬと聞て家内むせうり孫兵衛も娘は本心
 あり娘のさうりも三年酒をやめて娘は食はせしめ
 あつたと文
 九つはして
 ちんちんか
 むのては
 ありま
 せん

新聞圖會 第十二号



おとほし

八尾善板